

幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

アンコールワット

発行日:2018年(平成30年)5月1日 《年6回・奇数月発行》 会報 第100号

特定非営利活動法人(NPO法人) 21世紀のカンボジアを支援する会

(AAC21) ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL:03-3991-2854 FAX:03-3557-1213
E-mail:info@aac21.net

【カンボジア事務所】Phon Preytea, Sangkat Chaom Chao, Khan Por Senchy
Khan Por Senchy, (Borey Newtown) Phnom Penh
(855) 78-784-808 (855) 17-599-707

【ホームページ】AAC21 検索

【公式ブログ】メコンの風に吹かれて 検索

【Facebook】https://www.facebook.com/aac21.net 検索

「夢ホーム・里子訪問の旅」に会員10名が参加

本会が主催した「カンボジアふれあいの旅」が昨年で終了したため、それに代わる企画として今年から「夢ホーム・里子訪問の旅」がスタートした。

旅の参加者を中心とした「夢ホーム・里子訪問の旅」実行委員会が主催した。

本会は裏方として、参加会員をサポートする役割を担うことになった。

3月8日～14日、第1回目の旅が行われ10名の会員が参加した。

参加資格は本会の会員のみとし、非会員で参加を希望する方には会員手続きをお願いした。

8日午前中、成田空港から全日空直行便でカンボジアの首都プノンペンへ。

9日、会員が寄贈した井戸の贈呈式に出席、併せて学用品を

寄贈し、生徒たちとしばし交流した。

10日、悲劇の跡地視察として「トゥールスレン博物館」と「キングフィールド」を視察、帰りに「ロシアンマーケット」に立ち寄った。

11日、本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」を訪問、子どもたちと交流した。

12日、地方の村で暮らす教育里子(2人)を訪問、里親がプレゼントを渡したり、里親から預かったプレゼントを届けた。

13日は終日自由行動日とし、各自プノンペンの街並みを散策した。

その日の夜には全日空直行便で帰国し、14日の早朝、成田空港に着いた。

旅行業法遵守の観点から、旅の参加者が率先して実行委員会を作り催行する初の試みだったが、

大きな問題もなく参加会員から好評を得ることができた。

7月には第2回目の旅を予定しており、奮って参加願いたい。



里子の家を訪問しました



夢ホームを訪問しました

カンボジアフェスティバル2018

カンボジアについて日本の方々に広く知ってもらおうと、在日カンボジアコミュニティ、在日カンボジア大使館、在日カンボジア留学生協会などが共催します。本会も、カンボジア支援NGO団体として、ブースを設けて出展しますので、ぜひお出かけになってください。入場無料です。

【開催日時】5月3日(木)、4日(金) 各日10時～19時

【開催場所】代々木公園イベント広場(東京都渋谷区神南2丁目)

《テント》 物品販売、カンボジア料理など模擬店、活動紹介

《舞台》 伝統舞踊、ファッションショーなど

※広報活動(新聞配布など)お手伝いして下さるボランティアさん募集中!

※詳細は、事務局へお問い合わせください ☎03-3991-2854

会報「アンコールワット」100号に寄せて

NPO法人21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸 恒次

本会の会報「アンコールワット」が100号を迎えた。本会が創立した2000年に第1号を発行し、18年間かけて100号を達成した。

上には上があるので、たかが

号といきたいところだが、とも一世代では無理なのでいつかバトンタッチし、次の世代が継承してくれることを期待している。

一言に100号とはいえず、そ

にカンボジアを訪問し、会報に掲載するための情報を収集しているわけだ。

30年程前、ある団体の新聞製作に関わったことがある。その時の編集長は元北海道新聞の記者で、文章は

足で書けとよく言っていた。つまり

現場に足を運ばないと、

心の琴線に触れる記事は書けないということだ。

30年も前に教えられたことだが、今なお肝に命じ、足繁くカンボジアに通いつけている。

100号では自慢にもならないが、会員始め多くの皆様の協力のもと、一度も休刊することなく継続できたことは誇るべきことだ。

この調子で200号、300

れなりの情報がなければこまに続けることは不可能だ。しかも現地カンボジアの活きた情報を掲載しなければ、すぐに飽きられてしまうだろう。

そんな理由からも、私は隔月



校舎がないため青空の下で授業している写真を掲載した初期の頃の会報記事(この写真を見て武藤滋先生が校舎を2棟寄贈してくれた)

カンボジアの子どもたちをサポートしてください

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行っても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

例えば73年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。



里親さん、ありがとう

- 【教育里親会費】 子ども1人につき 1年間3万円。
 - ・内訳
 - 子どもへ直接支援する額=12,600円(42%)
 - 年会費(会の運営に回す額)=17,400円(58%)
 - ・子どもへの直接支援額を高めるよう努力しております。
 - ・一括納入、分割納入(毎月、年3回、年2回)のどちらでも可。所定の郵便振替用紙を使いお振込みください。
- 【支援する期間】
 - ・少なくとも子どもが学校を卒業するまでの間、支援して頂けたら幸いです。やむを得ず子どもが中退する場合がありますが、その際は別な子どもの支援をお願い申し上げます。
- 【子どもとの交流】
 - ・子どもからは概ね6ヶ月に1度、近況を報告する手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。
 - ・里親から手紙、プレゼントを届けることができます。(子どもから写真とお礼の手紙が届きます)
 - ・年3回実施の「里子訪問の旅」に参加し、里子に会うこともできます。

本会は皆様からの寄付金のみで活動しているNPO法人であり、現在公的資金(税金)はいただいておりません。

寄贈した校舎や井戸等の再点検プロジェクト開始

本会では18年間、カンボジア各地に校舎を28棟、井戸を320基、ほかトイレ棟や遊具などを寄贈してきましたが、人手が足りないこともあって、寄贈後の状況把握がままひとつできていかなかった。

そこで本会は、過去に寄贈した物件を再調査し、必要な措置を講じるための新プロジェクトをスタートした。

まずは3月16日、カンボジア滞在中の平古場正行理事(横浜市)

12年前に平古場正行理事が寄贈した井戸は故障せず使われていた



児童養護施設 夢ホーム日記

カンボジアのコンボンスプー県にある児童養護施設「夢ホーム」は、両親や片親を亡くしたり、親がいても不遇な環境にある子どもたちの教育と生活の場として、会員の皆様のご厚意により2009年3月に開園しました。

現在11歳～18歳の男女12人が暮らし、近隣の小・中・高校に通学しています。

「夢ホーム・里子訪問の旅」参加者が訪問

3月11日、「夢ホーム・里子訪問の旅」に参加した9人が訪問、子どもたちと交流した。参加した平古場正行さん(理事)から、通学用にとペットボトルのホルダーが寄贈された。



カンボジア正月で子どもたちが帰郷

カンボジアのお正月は4月14日～16日。これをはさみ、小・中・高校は約2週間のお休みとなった。(日本の冬休みと同じ)

夢ホームの子どもたちも4月5日から20日まで帰郷した。戻る家がない子たちはそのまま園に留まった。

カンボジアの小学校に

4つの井戸が完成

3月9日、「夢ホーム・里子訪問の旅」の中で、深川義治・美保子様が寄贈した井戸贈呈式を小学校で行った。

3月20日、根岸理事長が出席し、3つの小学校で井戸贈呈式を行った。松原睦美様(2基)と澤木和子様(1基)が寄贈した。

4つの小学校に完成した井戸はきれいな水が出て、子どもたちは早速手を洗ったり、水を飲んだりしていた。



澤木和子様 寄贈 松原睦美様 寄贈 深沢様ご夫妻 寄贈

3月に完成した井戸の内訳

寄贈者名	学校名	生徒数	所在地(県名)
1 深川義治・美保子様	コンボンブリアス小学校	161人	コンボンチャム県
2 澤木 和子様	トリアブーン小学校	435人	トゥボンクモム県
3 松原 睦美様	ワトコキー小学校	370人	トゥボンクモム県
4 松原 睦美様	ブレクアジー小学校	540人	トゥボンクモム県

※通算の井戸設置数(2003年～): 320基(3月現在)

ロマンソー小学校の校舎が完成

「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」(新潟市秋葉区、石川幸夫代表)の資金協力により建設中だったロマンソー小学校(コンボンスプー県オラル郡、生徒数160人)の校舎が完成、5月11日の贈呈式を待つばかりとなった。

新校舎は、レンガブロック造り平屋建ての3教室。併設し、トイレ棟が近藤釣一様の支援で完成した。



完成したロマンソー小学校校舎

ジーポア小学校の新校舎建設進む

石川桂副理事長(愛知県安城市、里親会員)の資金協力により1月に着工した「ジーポア小学校」(コンボンチャム県、生徒数1221人)の新校舎建設が順調に進んでいる。

工事は7月頃に完成の見込み、11月に安城市民の皆様が出席して贈呈式を予定している。



工事中のジーポア小学校校舎

新校舎で勉強しています

「味の素労働組合」及び「味の素グループ労働組合」の資金協力で1月に完成した「クリアウ小学校」(トゥボンクモム県、生徒数1165人)の新校舎。早速2月から授業が開始、生徒たちはきれいな教室で勉強できる喜びをかみしめていた。

子どもたちの文集(第2集)原稿集まる

二本松ロータリークラブ(福島県二本松市、団体会員)の支援でトイレと遊具も併設され、二重の喜びに沸いた。

新しい教室で授業中の生徒たち



子どもたちの文集(第2集)原稿集まる

3月15日、カンボジア滞在中の石川桂副理事長(愛知県安城市、里親会員)がトロバントム石川小学校を訪問、生徒たちへ1月に依頼した文集(第2集)の原稿が沢山集まり、石川副理事長が感涙する一幕があった。

第2集目というところもあり、今回はカンボジア語のみの文集とし、1月に完成する予定。



生徒たちに話す石川桂副理事長

國學院大學「優志」の皆さんがカンボジアを訪問

2月20日～3月8日、國學院大學国際協力サークル「優志」(本校東京都渋谷区)の皆さん(7人)がカンボジアを訪問、農村で衛生指導やリサーチ活動を行った。

2月25日には「夢ホーム」を訪問、カレーを作り子どもたちと食事を共にした。

その日の午後には、2人目の里子となる子どもを訪問した。



夢ホームを訪問した優志の皆様

上山陽子さんが音楽と遊戯指導

2月26日～27日、カンボジアに滞在中の上山陽子さん(奈良県大淀町、里親会員・法人監事)が小学校で音楽指導、幼稚園で遊戯指導を行った。

音楽指導は、今回から「ソムブール小学校」で実施、遊戯指導はタメイ小学校で実施した。遊戯指導も、次回からソムブール小学校で行うことになった。



鍵盤ハモニカを教える上山陽子さん

村の子どもたちに寄贈品を届けました

3月19日、根岸理事長が小学校や里子にプレゼントを届ける中で、日本より持参した寄贈品を子どもたちに配り、喜ばれた。

※届けた品物の種類と寄贈者名は次の通り。

- ・ 飴とカードのセット(岩橋京子様)
- ・ サンドル(鴻野博司様)
- ・ サインペン(前田和生様)
- ・ ぬいぐるみ(加藤知恵子様)



サンダルをありがとう

《夢ホーム》第36回 鑄造によるアクセサリ作り技術講習会



講習会の様子

榎戸徹彦さん(横浜市、理事・里親会員)は隔月にカンボジアを訪問、夢ホームにある工房で、夢ホームや近所に住む子どもたちを対象に「アクセサリ作り技術講習会」を開催している。

第36回目の講習会を、3月28日～31日に実施した。

前回の講習会で製作した物の鑄造が終わったので、その仕上げ作業を中心に行った。

次の講習会を、6月に予定している。

書き損じハガキ・未使用切手・商品券等を送りくださいませ

本会では、書き損じハガキ・未使用の切手・ビールやデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。普通郵便で事務局へお送りください。



クメール教育里親基金活動レポート

本会は、病気や事故、親の離婚などにより両親や片親を失い、また親がいなくても貧しい家庭環境にあるカンボジアの子どもたちが安心して学べるようにと、2003年に「クメール教育里親基金」を創設、現在約400人の子どもたちを教育支援している。

3月12日、「夢ホーム」里子訪問の旅」の中で、2人の里子を訪問した。

今後「夢ホーム」里子訪問の旅」では、里親が直接参加できなくてもプレゼントを届けるなどして里子を訪問、近況を尋ねることにしている。



里親さんに代わりプレゼントを届けました

今回20人の里子を訪問したが、最近の傾向として里子の親に会うことが少なくなった。多くの母親が縫製工場などで働いており、父親も建設現場で寝泊りするなど不在のケースが多く、その間、里子は祖母や叔父叔母が世話をしている。

3月19日と21日、根岸理事長が里子を訪問、日本から持参した里親からのプレゼントを届けたり、新しく支援を開始した里子に会って家庭状況などの聞き取り調査を行った。

教育支援金を隔月に届けています

本会のカンボジア事務所では、教育里子に通う小学校(28校)を隔月に訪問、教育里親様から頂戴した年間3万円の中から、42パーセントに当たる12,600円を6回に分け、アメリカドルに換金して教育里子に届けている。(現行では1回につき18ドル支給)

中学校、高等学校に通う教育里子も、出身した小学校に集まってもらい、支援金を渡している。

里子に渡すお金は教育支援金という名目ではあるが、用途については特に指示していないため、一部生活費として使っている場合もある。生活が安定することで通学が可能になれば、それはそれで良しとすべきだろう。



教育支援金を届けました

(第1回)スワイポック小学校

寄贈した校舎・井戸などの再点検プロジェクト

本会では、今までにカンボジア国内に寄贈した校舎や井戸などの物件が適正に使用されているかどうかを知るため、定期的なリサーチを開始しました。リサーチ担当は、平古場理事と及川理事です。その第1回目を3月16日に実施しましたので、紙面にこの報告致します。



授業中の生徒たち(スワイポック小学校)

- ・寄贈物件……小学校校舎(5教室)
- ・所在地……コンポンチャム県ハーティ郡
- ・寄贈者……辻義輝様(故人・熊本県合志市)
- ・寄贈年月……2009年3月

- ・現状と対策
- ①校舎ができて9年が経ち、そろそろペンキの塗り替えが必要な状況。
- ②教室の床のコンクリートが壊れていて、部分的な修理が必要な状況。
- ③遊具がないので、あれば生徒たちは喜ぶだろう。

投稿

「そだねえ」

今 紀子

1年ぶりのツアー参加だ。システムが変わって諸手続きを自分でしなければならぬ。一瞬「引退」の二字が頭をよぎったが、いやまよよ、これはかなりおもしろい「脳トレ」になりそうなきがする。

先ず、チケットの購入。いろいろな方法があると思うが、旅行会社に取り扱って早い。座席も窓側、通路側、自由に選べる。

ついでに「海外旅行保険」も頼んじゃお。当日、空港でもでき

学用品を配る今紀子さん

そんな深刻にならずに申告できるでしょう。こんな時は老眼鏡が強い味方になるはずだ。もっと強い味方は、理事長はじめ気配り全開の理事の面々。困った事があつたら、何でも頼んじゃお。頼りになるよ。

そだねえ。んだはおらはおらで一人カンボジアさ行くも!

(東京都渋谷区、会員)

タメイ小学校と平田小学校の絵画交流

3月14日、及川英博理事(岩手県奥州市、里親会員)が、夢ホームの子どもたちが通学する「タメイ小学校」(コンポンスプー県チュバモン郡)を訪問した。

タメイ小学校の小学4年～5年生が描いた絵画(16点)をいただき、帰国後に、絵画交流している平田小学校(岩手県釜石市)の生徒たちに届けることにしている。



タメイ小学校の生徒たち

投稿

「カンボジアの旅」

遠藤 秀典

今回のカンボジアの旅で、様々なことを学ぶことができました。

例えば、街から少し離れた道に牛が普通に歩いてゴミを漁っていた光景を見たときには、日本とは随分ちがうと思われました。

そして、子どもならば鉛筆、消しゴム、ノートは誰もが持っていると思っていました。ところが、日本は恵まれていることに、衝撃を受けました。

また、里子訪問で伺った際に、街中とは違いトタンでできた家がありました。

里子の女の子のお爺さんは、地雷を踏んでしまったため義足をつけていました。とても貧しい地域であることに気がつくことができました。

そして、プノンペン市内を観光した際、トゥールスレン虐殺博物館と、キリング・フィールドに行きました。

カンボジアの歴史に、このような残酷な過去があったことに、とても心が痛んだと同時に、また再び繰り返さないよう伝えていきたいし、是非ともみんなに行ってもらいたいと思いました。

私は、今回の「夢ホーム」里子訪問の旅」に参加させていただき、自分が今暮らしている環境に感謝したいと、改めて思いました。

そして、カンボジアを支援する活動はこれからも必要だと感じました。(愛知県あま市、会員)



学用品を配る遠藤秀典さん

ウオツチカンボジア

「トゥールスレン博物館」と「キリングフィールド」に日本語音声ガイドダンス

プノンペン市内にあるポルポト時代の刑務所跡地(トゥールスレン博物館)と、処刑場(キリングフィールド)を久々に訪ねた。

以前は設置されてなかった日本語音声ガイドダンスが両方ともあり、分かりやすく見学することができた。

日本同様カンボジアも大きな犠牲を払い、今日の平和を勝ち取ったわけだ。

プノンペン市内にあるポルポト時代の刑務所跡地(トゥールスレン博物館)と、処刑場(キリングフィールド)を久々に訪ねた。

以前は設置されてなかった日本語音声ガイドダンスが両方ともあり、分かりやすく見学することができた。

日本同様カンボジアも大きな犠牲を払い、今日の平和を勝ち取ったわけだ。

空港と市内を結ぶ路面電車の工事が進む

プノンペン国際空港から市内へのアクセスは車のみだが、空港と市内を結ぶ路面電車のレール敷設工事が進んでいる。今年の7月に完成予定とのこと。

並行して立体交差の工事も進み、同じく7月に開通予定。



夢ホーム近くにおしゃれなカフェ出現

9年前「夢ホーム」が開設した頃、周りは閑静な田園風景だったが、最近夢ホームの近くにカフェができ、若者の溜まり場になっている。商店も沢山できており、「夢ホーム」の周りは一層都市化が進んでいる昨今だ。



通称「日本橋」が全面修理中

今から25年前、日本が初めてカンボジアに無償援助した通称「日本橋」が老朽化したため、昨年9月、日本の無償援助による修復工



事、今年9月、日本の無償援助による修復工

事、今年9月、日本の無償援助による修復工

2018年度定期総会を開催

3月31日(午後2時~4時)、練馬区立「練馬文化センター・会議室」にて、2018年度定期総会(第16回)を開催、14人の会員が集った。遠くは新潟県、愛知県からも来てくださり、質疑応答や自己紹介に多く時間を取り、有意義なひとときだった。2018年度事業計画と予算、新理事も承認され、本格的な活動が始まった。

第16回定期総会の様子



写真展「笑顔のカンボジア」開催

(撮影:遠藤啓)

3月29日~4月2日、しずぎんギャラリー(静岡県沼津市)で写真展「笑顔のカンボジア」が開催された。遠藤啓さん(静岡県伊豆の国市、会員)が主宰、多くの沼津市民が見学に訪れた。100点に及ぶ大小写真の数々は、遠藤さんが17年間、カンボジアを訪問して撮りためたもの。その大半が、田舎の子どもたちの日常を撮った写真。

写真展を主宰した遠藤啓さん



カンボジアでもさくららのシーズン

2月から3月は、カンボジアでもさくらが咲くことをご存じだろうか?以前に日本のさくらを植えたそうだが、根付かせることはできなかった。カンボジアに咲くさくららは「台湾さくら」が元名で、今では「カンボジアさくら」と言っているそうだ。プノンペン市内では、ラッフルズホテル、プノンペンホテル、辺りの通り沿いに咲いている。(中野勝、宝塚市・会員)



カンボジアのさくら

活動に参加しませんか

正会員として

- 教育里親会員(月額3万円) 子どもたちへ直接払う月額 1万2千6百円(42%) 会の運営に回す月額 1万7千4百円(58%)
- 個人会員(月額5千円)
- 団体会員(月額1万円)

寄付金

当会の活動に賛同いただける方からの寄付金も受付しております。

会費寄付金の送付は、銀行振込郵便振替、現金書留で。

【口座名】

21世紀のカンボジアを支援する会

【ゆうちょ銀行】

019支店 当座 0160916

【りそな銀行】

練馬支店 普通 4098235

●ゆうちょ銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご連絡ください。

●会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。

クメール教育里親会員になりませんか

カンボジア王国認定団体:活動歴18年

カンボジアの子どもたちを助けてください



里子の家を訪問して家族と交流します



里子と里親さんとの再会・言葉はいらない



教育と貧困の連鎖が起きている



4・5年生になると働きに出してしまう

1年間3万円で子どもが学校に行くことができます。どなたか1人里親を紹介ください。下記に連絡を!

東京本部 ☎176-0011 東京都練馬区豊玉上 2-25-7-203 ☎03-3991-2854

「カンボジア夢ホーム・里子訪問の旅」のお知らせ

第1回「カンボジア夢ホーム・里子訪問の旅」は会員10人が参加し、3月8日~14日に行われました。初の試みとしては参加者も多く、有意義な旅でした。そこで、第2回目の旅を計画しましたので、会員の皆様奮ってご参加ください。

【旅の主催】・「カンボジア夢ホーム・里子訪問の旅」実行委員会(旅の参加者で構成します)・本会は従来通り側面からサポートします。

【旅の期間】・2018年7月5日(木)~11日(水)(成田到着)

【主な内容】・小学校を訪問、井戸の贈呈式に参加、学用品を配布して生徒たちと交流する。・本会が教育支援する里子たちの家を訪問、里子たちと交流する。・本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」を訪問、子どもたちと交流する。

【参加対象】・本会の正会員(教育里親会員、個人・団体会員)

【滞在実費概算】・5泊6日で滞在費用は350ドル~400ドル程度(40,000円~45,000円程度)《内訳》部屋代5泊半日で165ドル・交通費・食事代・観光経費で約200ドル。・往復航空券(各自手配、成田⇄プノンペン)は5万円~7万円(時期、購入方法により異なる)

【主な日程】・7月5日(木) 成田発(ANA直行便)プノンペン行き 午後4時到着→ミトホテルへ
・7月6日(金) 小学校訪問、井戸贈呈式・学用品配布・生徒たちと交流(交通費不要)
・7月7日(土) 悲劇の跡地視察(トゥールスレン博物館・キリングフィールド・FCC) オルセイマーケット ※希望者はオプションでアンコールワット観光(時期により多少上下しますが、費用はおおよそ300ドルを見込んでいます)
・7月8日(日) 児童養護施設「夢ホーム」訪問交流・セントラルマーケット
・7月9日(月) 里子訪問(里親以外の会員も参加できます) 2~3人の里子を訪問。里親が参加しないときは他の里子を訪問します。
・7月10日(火) 選択コース(Aコース=小学校訪問、授業参観 Bコース=プノンペン市内観光(王宮、国立博物館) 現地で選択してください。夜、ANA直行便で帰国(機内泊)
・7月11日(水) 午前6時半 成田国際空港に到着

- ◎航空券は原則個人で手配願います。(事務局に依頼することもできます)
- ◎入国ビザは現地空港で取得します。(30ドルかかります)ビザ申請書含む入国関連書類は本会作成の記入例に従い、機内で記入します。(旅の参加者がサポート)
- ◎現地滞在費用は、事前に各自ドルで用意願います。
- ◎ホテルの予約、車の手配は本会の実行委員会で行います。
- ◎参加締切日は出発の1カ月前(6月5日)、希望者は事務局へ連絡願います。詳細資料を送付します。
- ◎連絡先=NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 ☎03-3991-2854 ファクス 03-3557-1213



新企画・小学校の授業参観

事務局便り

今年も、お年玉募金に沢山の会員様からご協力頂きまして、誠にありがとうございました。3月末日で締め切り、合計377,500円が寄せられました。夢ホーム運営基金として活用させて頂きます。

■数年前、鈴木千雄様(故人)が本会に寄贈くださったバツジですが、まだ少し残りが残っています。ご希望の方には、送料込み千円でお分け致しますので、事務局にご連絡ください。

■ホームページに掲載している本会の紹介用ビデオが古くなり、再製作の必要が生じておりますが、予算が乏しいため、暗礁に乗り上げております。どなたか、格安で製作してくださる方をご紹介くださいませんか?

■里親会員の沢畑キヨイ様が、病気のため3月12日に逝去されました。享年78歳でした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

5月~6月の予定

- 会報「アンコールワット」5月1日付第100号発行
- カンボジアフェスティバル(5月3日~4日、東京渋谷の代々木公園)
- 根岸理事長他、カンボジア訪問(5月中旬~下旬にかけて)
- 愛知県板金工業組合青年部&リカバリーサポートあいち、カンボジア訪問(6月6日~11日)